



東京横浜出身。勤務後、嫁が先でアパレル企業に勤務。姉の嫁が先でうどん屋を営む。自然が好きだったことから移住を決意。昨年5月「北の國庵」をオープン。

**生まれは岡山 自然が大好きなんです**

すごい田舎でね、ことと同じように。家を出たら目の前が海。家の裏には早口川よりデカイ川が蛇行してます。昔から潜りは得意ですね。東京にいるときも、毎年隠岐の島(島根県)に潜りに通っていた時期がありました。

**アパレルからうどん屋へ**

アパレル業界で働いてたんだけど、昔から45歳になったら全く違う職業をという思いがあった。料理好きなので食いもの屋がやりたいくて、そば屋を始めることにしました。でもそこで思ったんです「女の人を無視したらどんな商売も成り立たない、でも…そば屋に女性客いないじゃん」って(笑)それで店の場所が決まった瞬間、

より女性受けしそうなうどん屋に変えたんです。

姉の嫁が先が大館だったので、キノコと山菜の時期には前からよく来ていたんです。採った食材を「秋田産」と書いてメニューに取り入れたりしていました。

**「あ、このでいいや」 自分の第六感がはたらいた**

これまで、姫路や大阪、長野など色々なところで暮らしてきて、田舎への移住は前から考えてました。昨年の暮れに横浜の店を閉めて、義兄がこつちに来いよと言ってくれたので来ました。物件を見た中で、ぼくが思った山の中つてのがここだった。最初来たときに瞬間的に「あ、ここでいいや」と思った。それはもう自分の第六感ね。ただ義兄は「もつとゆつくり考えろ(「こんなところ来ねえぞ」)、

100人中100人に「なんでここ?」と言われる。でもここ、最高ですよ

くにもと あつたか  
**國元 厚孝さん**

姪っ子は「夜に行ってみない?」「真つ暗で諦めるだろう」って。みんな反対なんだろうけど、面と向かっては言わない(笑)。でも実際に来てみたら、一面雪で真つ白、昼間より明るいくらい。それでぼくはますます好きになっちゃった、「この景色いいね」って。

**少しも退屈しない、もつと時間が欲しい**

今はのんびりと食っていければいいと思ってます、自分の生きるベースがあれば。それよりも空いた時間でやりたいことが山のようにあるんです。

ここは最高ですよ。まず山菜は売るほどある。9〜11月はキノコね。それに紅葉も奇麗だし。あと釣りが好きのお客さんと、毎週海に行ったり。やることなすこと全部感動。それをもつと人に伝えたいなとも思います。

**天然の白鳥!**

ぼく初めて白鳥を見たんですよ。でかいんですね、あれ。最初、どこからかファン、ファン、ファンて音がして、何かなあと思って。義兄「今、白鳥が来てんだよ」ぼく「え、天然ですか!」ってね(笑) 田んぼにいつぱいいるのを1時間くらいずっと見てたことも。そのくらい感動しました。



◀「北の國庵」

**大野へお越しください ぼくが面倒みますよ**

自活できる人にはその人に合ったフィールドだけ探してあげればいい。ぼくでいいばこの物件とかね。あとは勝手に楽しんで(笑)。でも、そうじゃない人もいる。そういう不安な人には、サポートする存在が必要だと思えます。だからぜひ、大野にお越しください。ぼくが面倒見ますよ(笑)

一歩踏み出すには勇気が要りますよね。本当に行くまでにはすつごい悩むと思う。みんなそうですよね、先が見えないからでも、踏み出してしまえばどうってことない。あとは、どうその環境に自分を適応させるか。大変だと思うことがあっても、その先に何か楽しみを見つければ、その過程も苦にならないんじゃないかな。

だから、踏み出す勇気を持って大野にぜひどうぞ!